

雨宮キャンパス跡地利用計画

環境影響評価準備書に対する市民意見及び事業者の見解

平成 29 年 10 月

イオンモール株式会社

準備書に係る意見の概要

意見の概要	事業者の見解
<p>平成 28 年 4 月の説明会では、敷地南西側に駐車場へ入る引き込み用の道路をつくり、上杉山通り(市道 愛宕上杉通 1 号線)は使用しないと聞いたように記憶している。</p> <p>しかし、準備書要約書では、上杉山通りに車両出入口が 2 箇所設置されており、主な出入口となっている。北山トンネルができて多少緩和されたものの、上杉山通りの北仙台、台原付近は朝夕渋滞しており、この計画どおりに進められると上杉山通りに大渋滞を巻き起こすと思われる。</p> <p>また、車両出入口が上杉山通りにつくられると、視覚支援学校南側の道路が抜け道として利用される可能性があり、視覚障害者が通行する際危険な状態になると思われる。さらに、駐輪場も上杉山通りに数箇所設置されることから、登下校中の小中学生など歩行者が自動車や自転車による交通事故に巻き込まれる危険性が十分に考えられる。</p> <p>車両出入口、駐輪場に関する計画について、再検討をお願いしたい。</p>	<p>方法書説明会の際は、自動車の入出場を市道北六番丁線と市道 愛宕上杉通 1 号線のそれぞれ 1 箇所に設ける出入口からおこなうこととし、計画地内に配置する自動車用通路を通過して駐車場までアクセスする旨を示しておりました。</p> <p>車両出入口には適宜交通誘導員を配置し、通行人や自転車も含めた通行車両の安全確保と交通渋滞の緩和に努めます。</p> <p>また、来店される方には、公共交通機関の利用を促すとともに、車両がスムーズに来店できるように誘導看板等の設置やホームページ等の経路案内により適切な入口に誘導するように努めます。</p> <p>今後も引き続き、道路管理者や交通管理者と協議を重ねながら、交通渋滞や自転車も含めた通行車両による安全性への影響を可能な限り低減できるように検討します。</p>
<p>農学部解体工事において、工事関係車両搬出入は農学部南側のみとなっていた。しかし、平成 29 年 7 月下旬より東門側の道路を通行すると連絡が来た。当初は、「上杉山通りをなるべく通らない。」と説明しながら、最初から上杉山通りに車両出入口をつくる計画で、解体工事で車両通行の既成事実を作っているのではないかと疑念を抱かざるを得ない。</p>	<p>雨宮キャンパスの解体工事は、東北大学が実施しているものです。</p> <p>本事業における工事用車両は、市道 愛宕上杉通 1 号線側からも入退場する計画で検討しています。工事計画が確定しましたら、「中高層建築物等に係る紛争の予防と調整に関する条例」に基づき説明します。</p>
<p>上杉山通小学校は、新校舎を増築したが既にパンク状態にある。雨宮キャンパス跡地に大型マンションを建設する予定ならば、上杉山通小学校ではなく、他の小学校への入学をお願いしたい。</p>	<p>小学校の学区については、事業者として回答できる立場にありません。</p>
<p>この土地のカエルは、農学部が設置される前からこの辺りに生息していたものと考えられる。この地区に最後に残った昔からの自然をなんらかの形で残す必要があると考える。</p> <p>当該土地の中を走る四ツ谷用水の一部を開渠にするなど、カエルの生息環境を残すことはできないか。</p> <p>イオンモールは商業施設ではあるが、地域の住民が憩えるような場所であってほしい。そこにカエルが生息できるほどの親水空間があれば、地域の文化の中心として発展すると考えられる。</p>	<p>様々な方が利用される商業施設にカエルの生息環境である水辺空間を残すことは、転落等の危険性があるため安全上の観点から難しいですが、雨宮キャンパスの既存樹木を極力活用した緑化計画を行うことにより、昔からの自然に近い環境を残してまいります。</p> <p>なお、四ツ谷用水は、現在、市道 北六番丁線の南側の地下を流れており、宮城県の工業用水として利用されています。そのため、その一部を開渠にすることは困難ですが、四ツ谷用水をモチーフとしたモニュメント等の整備について検討していきます。</p> <p>また、地域の住民の方が憩える場所として、広場をつくるとともに、既存樹木を活用した歩道状空地等を整備する計画としています。貴重なご意見として参考にさせていただきます。</p>